

日観連 2009年度春季 旅館営業概況調査

新型インフルで業績低迷

調査期間 = 2009年3 ~ 5月、回答数251軒

地域・規模別営業概況

= マイナス

Table with columns for region (e.g., 北海道, 東北, 関東), scale (大規模, 中規模, 小規模), and metrics (総宿泊単価, 宿泊単価, 定員稼働率) for 08 and 09 years.

主要観光地所在地の会員施設を対象にした調査の結果、今期の回答施設数は251軒。定員稼働率の低迷は、新型インフルの影響が大きい。特に国内最初の発生が確認された近畿では、修学旅行のキャンセルが相次ぐなど、前年同期比15.8%減の39.9%、月別では5月が21.8%減の39.9%だった。北陸・九州の定員稼働率も2ヶ月前の下幅。春季で前年同期を上回った地域はなかった。総宿泊単価もダウンした。全国平均で旅館の規模別にみると、大規模が2.9%減の1万5300円に下げた。中規模は

定員稼働率33.4%に下降

日本観光旅館連盟(近畿孝休会長、3551会員)がまとめた春季(今年3月~5月)の旅館の営業概況調査によると、世界同時不況の影響に加え、新型インフルインフルエンザの発生がマイナス要因となり、全国平均の定員稼働率は前年同期比7.2%減の33.4%に下降した。総宿泊単価(客1人当たりの総売上)も同1.8%減の1万5722円と低迷した。宿泊単価(客1人当たりの基本宿泊料)も同1.6%減の1万1383円となった。

1日1室当たり売上高

= マイナス

Table showing 1 day 1 room average revenue by region and scale for 08 and 09 years.

0.4%減の1万586円と微減。1日1室当たりの売上高も全国で前年同期の実績に届かなかった。全国平均は9.0%減の2万345円。地域別では近畿・北陸・九州が2ヶ月前のレベルに落ちた。大規模が10.2%減の2万2026円に下がり、中規模も7.2%減の2万1000円、小規模も8.0%減の2万1915円に落ちた。春季の営業状況に対する調査の結果、調査期間中の大規模の売上高は、調査期間中の大規模の売上高の減少が顕著な結果となった。

調査データ

月別営業概況

= マイナス

Table showing monthly business overview by region and scale, including month, total average price, average price, and occupancy rate.

観光地別営業概況

= マイナス

Table showing business overview by tourism spot, including region, spot name, total average price, average price, and occupancy rate.